

平成29年度 学校評価 報告書

学校法人 センチュリー・カレッジ
専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー



I. 平成29年度 学校関係者委員会 開催記録・議事録

1. 日時及び場所：

(1) 日時：平成29年12月7日（木） 18:30～20:30

(2) 場所：専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 2階 第4・5教室

2. 出席者

(1) 学校関係者評価委員

松崎 充意（一般社団法人石川県予防医学協会 理事長）

竹内 郁登（医療法人社団浅ノ川 千木病院 リハビリテーション部長）

長谷田 敦志（公立南砺中央病院 リハビリテーション室主任）

横川 茉美（医療法人社団博友会 金沢西病院 作業療法士）

(2) 本校教職員（オブザーバー）

加藤 謙一（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 校長）

黒田 智利（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 事務局長）

山本 達也（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 経理課 課長）

狩山 信生（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 理学療法学科 学科長）

種本 美雪（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 学科長代理）

3. 欠席者

井上 良（専門学校 金沢リハビリテーションアカデミー 作業療法学科 学科長）

[敬称略]

4. 会議次第

(1) 開会

(2) 校長挨拶

(3) 委員、教職員紹介

(4) 学校評価と学校関係者評価委員会についての概要説明

(5) 平成28年度 自己評価結果と平成29年度重点目標 報告

(6) 財務状況 報告

(7) 意見交換

(8) 閉会

5. 配布資料

(1) 学校評価 概要 資料 1

(2) 学校評価 規程 資料 2

(3) 組織図 資料 3

(4) 学校基礎情報 資料 4

(5) 平成28年度 授業評価 資料 5-1

(6) 臨床実習指導者による学生の総合評価 資料 5-2

(7) 平成29年度 重点目標について 資料 6

(8) 平成28年度 決算報告書 資料 7

(9) 学校評価 評価シート（平成28年度 自己点検・評価 結果表）※事前送付

6. 議事録

(1) 校長挨拶（要旨）

- ① 18歳人口の減少は、北陸においても2020年には大きく影響が表れ、学生募集もますます厳しい状況を迎えます。社会に必要な人材を輩出し続ける学校であり続けるために「自己評価」及び「学校関係者評価」の実施・公表の責務と果たすとともに、本校の課題を真摯に受け止め、教育の質を高めて魅力ある学校づくり取り組んでまいります。
- ② 「職業実践専門課程」の認定、さらに新しい学校種「専門職短期大学」への将来構想を見据えたうえで必要となる活動であることをご理解頂き、是非とも委員の皆様より忌憚のないご意見をいただきたくお願い申し上げます。

(2) 委員、教職員紹介（校長加藤）

- ① 学校関係者評価委員の紹介
- ② 本校教職員の紹介

(3) 委員長の選出

委員長に松崎充意氏が推挙され、満場一致で承認された

(4) 学校評価と学校関係者評価委員会についての概要説明（校長 加藤）

- ① 学校評価について概要説明
- ② 本委員会の目的・役割の再度確認

(5) 平成28年度自己評価結果と平成29年度重点目標および財務状況の報告・質疑応答

（校長 加藤、経理課 山本）

※各委員の評価・意見については「Ⅱ. 平成28年度自己点検・評価および学校関係者評価」に記す。

1. 教育理念・目標

竹内委員) 周囲に対する気遣いや職場・家庭での挨拶は、一番大切な基本的なことのひとつだと思います。

残念ながらできていない職業人も多いので、金沢リハビリテーションアカデミーの学生から率先して気持ちの良い挨拶をしていくことは、就職先等でもとても良い効果を波及していくと思いますので、そういったことを期待しています。

松崎委員長) 我社の行動指針に「思いやりの心」があります。気遣いや挨拶という行為は「思いやり」と根底でつながっていると思います。挨拶を交わすことでお客様、お取引業者、職員、関わるすべての人の間に、スッと入りやすい連帯・一体感のようなものが生まれると感じています。

長谷田委員) 「感動の共有」を実現するために、社会的態度、礼節、気遣いなどの教育は、現場の先生方は具体的にどういった指導をしているのでしょうか。私の勤務先は複数の養成校の実習生を受け入れているので、卒業生としては、母校の学生を「金沢リハビリテーションアカデミーの学生は違うね！」と褒めてもらえるような教育を徹底してもらいたいと強く願っています。

横川委員) 挨拶を教育するときは「何を目的としているのか」という根本をしっかりと学生に伝えてほしいと思います。挨拶は、子供のころから教えられてきた基本的なことであるがゆえに、「患者さんとコミュニケーションをとるための最初の一段階である」という認識を学生が持てるように指導してほしいと思います。

校長) 社会人・医療人としての驍と職業倫理をしっかり持ち、相手の立場に立って考えられる、相手に対して気遣いができる学生を育成するために、改めて教員個々人の経験を集約して、学校組織として体系的に整理したいと考えています。

3. 教育活動について

◆ 資料5-1 授業評価

長谷田委員) この結果の数字は、「理学・作業療法士になりたい」と明確な意志を持った学生が昔に比べて少なくなったことを反映していると解釈をしてよいのでしょうか。

横川委員) 現場では、仕事内容ややりがいを求めて特定の職業を志す学生が減り、漠然と国家資格を取得することを重視した職業選択する学生が増えたことに、職業意識の変化を感じています。
また、アンケート項目から、自分の在学していた頃と比較して、教える側(学校・教職員)が学生から評価をされる時代に変化したことを感じました。

校長) そうですね、横川先生の在学時に比べると、近年は学生も世の中も変化してきました。受験者の「理学・作業療法士になりたい」意志や思いが希薄かどうかは、入学試験の場面では正直見えにくいのですが、在学生の面談等では学業継続に対する考え方などから、昨今の傾向として、職業意識はあまり高くないことが授業評価の結果に反映しているのかもしれないと感覚的に感じています。

◆ 資料5-2 臨床実習指導者による学生の総合評価

竹内委員) 現場にいる先輩療法士が実習生を評価するので、知識・技術の専門的な部分は必然的に評価が辛口になる傾向はありませんか。

長谷田委員) はい、どうしても専門的な部分の評価が厳しくなる傾向はあると思います。ただ、個人的な意見ですが、レーダーチャートの左側(知識・技術)に関しては、卒後教育としてOJT(On-the-Job Training)でも十分に教育していくことは可能だと考えます。
それよりも同窓としては、一番大切にしてほしいことは、「理念」の部分の人間教育で、これらはどの職種、どの業界でも大切なことなので、是非とも金沢リハビリテーションアカデミーらしい人間教育に熱い情熱を注いでほしいと願っています。

校長) 礼節や社会的態度に良い評価を頂いたことは非常にうれしく思います。引き続き人間教育に力を入れてまいります。専門的な知識・技術面に対する厳しい評価も真摯に受け止め、本来の養成機関としての教育もしっかりと取組んでまいります。

4. 学修成果について

◆平成 28 年度学科別の進級率・退学率及び退学理由：

	進級率			退学率
	1 年次	2 年次	学科計	学科計
理学療法学科	97.5%	89.2%	93.5%	4.7%
作業療法学科	92.7%	91.2%	92.0%	6.5%
全 体	95.1%	90.1%	92.8%	5.6%

退学理由： 進路変更（就職）8名、進路変更（就職以外）2名、病気・けが・死亡1名、除籍1名

（進級率＝進級者数/平成 28 年 4 月 1 日生徒数 ※留年生を含む）

（退学率＝退学者数/平成 28 年 4 月 1 日生徒数 ※留年生を含む）

退学防止策： 医学系基礎などの学習難度が急激に上昇する科目を中心に、学生の心理的な負担を減らして授業にスムーズに適応できるように、入学前教育として通信添削課題を提供している。

また、新しい環境や学校生活に早く馴染めるように、上級生と新入生同士の交流を目的とした学校行事（ウォークラリー）を4月に企画している。

◆ 平成 28 年度卒業生の国家試験状況：

	受験者数	合格率	全国平均
理学療法学科	29 名	93.1%	96.3%
作業療法学科	30 名	93.3%	90.5%
全 体	59 名	93.2%	—

（国家試験合格率＝平成 28 年度国家試験合格者数/平成 28 年度卒業生数）

国家試験対策： 臨床実習終了後、意識を国家試験受験に向けて即時切替し、長時間学習の定着化を図ることを目的とした合宿を実施。

また国家試験対策の指導教員はインストラクションスキル向上のための外部の専門講習を受講している。

◆ 平成 28 年度就職状況：

就職率：100.0%

（就職率＝就職者数/就職希望者数）

	県内	県外
理学療法学科	16 名	11 名
作業療法学科	16 名	12 名
全 体	32 名	23 名

就職対策： 希望する施設種別の開拓、県外就職希望者の学生支援として、学内就職ガイダンス（採用担当者による企業説明会）を開催。1 年次から参加することで早期からの職業意識の醸成に役立っている。

竹内委員) 入学前に課題を出すという取組みは良いと思います。
現行の教育制度では難しいのですが、(医師である)自身の経験から基礎と臨床を両面から併せて学び進められると、身体の構造や機能、複雑な関連性などの重要なポイントが見えてきて学生は理解がしやすいと思っています。

校長) 竹内先生の仰るとおり、単独で基礎を学習するよりも、臨床の話を織り交ぜながら学習の方が成果は上がるのではないかとの議論が教員会議で上がっていますので、通信添削方式と集合教育方式についても併せて今後検討していきたいと思っています。

5. 学生支援について

松崎委員長) 学生さんはどういう悩みで面談やカウンセリングを必要としていますか。また、学校側はどのような対応をしていますか。

教員 狩山) 実習中に指導者とのコミュニケーションに悩むケースが多いと思います。現状は教員が学生の悩みを引き出したり、実習指導者と学生の間に入ってやり取りをしています。カウンセラー体制や専門的なノウハウはありませんので、経験則で対応している状況です。

松崎委員長) 実習指導者の中には高圧的な指導態度の方もいらっしゃるのですか。

長谷田委員) 個人差はありますが、近年の、特に若い学生さんはストレートに受け止めてしまう傾向があるのかもしれない。そのため施設では、実習指導者を指導する立場の人間、あるいは学生をフォローする立場の実習指導者をもう一人配置して対処している状況ではないかと思っています。それでも臨床実習の現場では、時に独りでやらなければならない状況がありますから、普段の学内では感じにくいストレスが表面に表れることは有り得ると思います。

松崎委員長) そういった若い学生さんも使いやすいものを取り入れて、皆で気軽に励まし合う体制もよいかもしれません。最近は職場でも企業向けSNSが導入されています。管理者は教職員の作業内容を全て把握できますし、教職員は必要な帳票やデータをシステムから取り出すこともできます。費用も月額1人300～500円程度で利用でき、導入した某企業では効率や風通しが良くなったという話を耳にしました。

校長) 非常に貴重な情報を有難うございます。
本校では学生向けに開放しているシステムがありますが、将来的にSNS機能を付加して、教職員向けのグループウェアとして一元管理できるものに拡張することを視野にいれていますので、是非とも参考にさせていただきます。

7. 学生の受入状況

◆ 平成28年度学科別の入学状況及び学生数：

	入学者数			学生数		
	男	女	計	男	女	計
理学療法学科	28名	12名	40名	61名	45名	106名
作業療法学科	23名	17名	40名	54名	52名	106名
全 体	51名	29名	80名	115名	97名	212名

◆ 収容定員充足率：

	収容定員充足率	
	平成 28 年度	平成 29 年度
理学療法学科	96.4%	97.4%
作業療法学科	96.4%	91.3%
全 体	96.4%	94.3%

松崎委員長) ホームページを見てもらうためには、インターネットの検索でいかに上位に表示されるかということが重要なポイントになります。金沢リハビリテーションアカデミーは何番目に表示されますか。

長谷田委員) ヤフー検索では“石川県 理学療法士”で検索すると3～4番目に表記されます。しかし、残念ながら私が勤務する地域(富山県城端地区)では、知名度は高くないように感じています。地元(城端地区)の学生を、石川県内の他校の学生として実習で受入れたことがあります。母校を選ばなかった理由を質問したら、元々ご両親が金沢リハビリテーションアカデミーの存在を知らなかったからというのです。我が母校は同窓も約600名も輩出しておりますし、実績もあります。それでも知名度という点において他校に劣ることをとても残念に感じています。例えば、新聞の専門学校特集の広告ページに母校が掲載されていないのは、卒業生としては寂しいですし、知名度を上げるという点についても考えてもらえると嬉しいです。

竹内委員) インターネットやホームページの時代ですが、紙の媒体も重視してはどうでしょうか。検索をしなければ引っかけられないホームページと、否が応でも情報が目に飛び込んでくる紙の媒体では、知名度の効果が大きく異なりますし、情報を受け取る側(年齢層、地域、学生・社会人など)も異なるように思います。

(6) 平成29年度重点目標について (校長 加藤)

教員会議に紐づけられる学内各委員会の重点項目および改善取組みを補足説明。

(7) その他 意見交換

松崎委員長) 先日、「人のやる気を引き出す技術」で著名なメンタルトレーナーの方(飯山 暁朗さん)のお話を聴講したのですが、療法士として患者さんの前向きな気持ちを引き出してサポートする職業に就く学生さんにも、きっと役立つ内容だと感じました。そういったカリキュラムとは別の特別講義も不定期に取り入れられると、気づきが得られたり、実践することで鍛えられて、人間教育に繋がっていくのではないかと考えますし、学校の特色にもなるのではないのでしょうか。

校長) ご意見を頂きありがとうございます。そのような特別講義は学生の意欲や向学心を刺激したり、医療人として職業倫理の醸成にもつながると思います。本校の目指す人材育成がかなえられるような企画を検討したいと思います。

Ⅱ. 平成28年度 自己点検・評価 および 学校関係者評価報告書

1. 教育理念・目標

自己点検・評価			学校関係者評価
【評価項目】		適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	【評価・意見】
(1)	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職大学(短大)への移行について現在の状況などを外部に公開してみてもどうでしょうか。 ・ リハビリテーション乗馬の取組については臨床現場で実際に行われている事ではないので評価が難しい。但し、当校の独自性と2020年パラリンピックへの参加という目標がある点は高く評価してよいと思います。 ・ 入試での選別については少子化の中で難しいこととは思いますが、引き続き取組んで頂きたいと思います。 ・ 教育活動の情報発信には、メディアとしてホームページの他に紙媒体のものがあったも良いかもしれません。(外部向け) ・ 学事の案内、年間予定などの日程を紙媒体で配布していただくと有難く存じます。(学生、父兄向け) ・ 馬を通した教育の説明が不十分に思え、分かりやすく発信した方がよいのではないのでしょうか。
(2)	学校における職業教育の特色は明確にされているか	3.4	
(3)	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.0	
(4)	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	2.8	
(5)	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	2.9	
【課題】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育理念は適切に定められ、教職員に周知はされているが、教職員全員が正しく均一な理解と部署を超えた情報の共有の不十分さが認められる。 ・ 基本理念や目標については、保護者説明会を開催し情報発信しているが、教育活動についての情報発信が非常に少ない状況である。 ・ 昨年度より馬を教育備品として取り入れているが、活用目的を保護者に発信した方がよいと思われる。 			
【今後の改善方策】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理念・目的・育成人材像を教職員が共通の認識を持てるよう、教職員への情報発信を徹底する。 ・ 学事の案内・教育活動について、ホームページを活用し、伝達していく。 			
【特記事項】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国でも例がない馬を活用したリハビリテーションに取り組んでいる。 ・ 教育理念・目標は素晴らしいが、それについていけない学生が増えているため、入試での選別を強化する。 			

2. 学校運営

自己点検・評価		学校関係者評価
【評価項目】 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1		【評価・意見】
(1)	目的等にあった運営方針が策定されているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報システムがスマートフォンから閲覧可能なのは素晴らしいと思います。 ・ 授業評価の結果のグラフは「はい」の割合を示す方が良いかもしれません。
(2)	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	
(3)	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	
(4)	人事、給与に関する規定等は整備されているか	
(5)	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	
(6)	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	
(7)	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	
【課題】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営方針(事業計画等)の教職員への発信が不明確であり、十分な把握がされていない状況である。 ・ 情報システムは導入されているが、各部署において未だ効率的なものとなっていないため、さらに効率化が必要と考える。 ・ 授業評価・自己評価を公開していない。 		
【今後の改善方策】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営方針(事業計画等)等を教職員が確認できる環境ならびにシステムを整備する。 ・ 職業実践専門課程認定を通して、自己評価・授業評価を公開していく。 		
【特記事項】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報システム化を目的に、学生各自のスマートフォンから求人票や掲示を閲覧できるようにしている。 		

3. 教育活動

自己点検・評価		学校関係者評価
【評価項目】 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1		【評価・意見】
(1)	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私自身、講義の一部を担当させて頂いておりますが、より良い教育方法について学ぶ機会を与えていただければ有難く存じます。
(2)	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	

(3)	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年制への移行に伴って学習時間の確保や実習期間が十分に確保されているのか少し疑問に感じます。 ・ 学外で全国的にも活躍されているPTを招いた特別講義などを開催して学生の意欲向上につなげてみてはどうか。
(4)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.2	
(5)	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直しなどが行われているか	2.8	
(6)	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等）が体系的に位置づけられているか	3.6	
(7)	授業評価の実施・評価体制はあるか	2.8	
(8)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	2.2	
(9)	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.5	
(10)	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	3.4	
(11)	将来へ向けたPT・OTの人材育成像を描いているか	3.4	
(12)	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.4	
(13)	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3.2	
(14)	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	2.6	
(15)	職員の能力開発のための研修等がおこなわれているか	3.2	
【 課 題 】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の専門分野の自己研鑽はしているが、学生の世代が変化する中で、教育者としての育成体制が未成熟である。 ・ 臨床実習指導者会議で関連施設との情報交換は行っているが、職業教育に対する外部関係者からの評価体制が整備されていないため、教育課程に意見を反映させていない。 ・ 授業評価は実施しているが、その結果を十分に活用できていない。 			

【今後の改善方策】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連施設の連携は、臨床実習指導者会議を通じてさらに密度の濃いものとしていくとともに、教育課程編成委員会から意見を基に充実した教育課程を構築していく。 ・ 現在、厚生労働省主催の専任教員養成講習会を順次受講してきているが、さらに、教員の研修に対し学術研修に加え教育指導に関する講習受講を推奨していく。 	
【特記事項】	
特になし	

4. 学修成果

自己点検・評価		学校関係者評価	
【評価項目】	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	【評価・意見】	
(1)	就職率の向上が図られているか	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人や現役以外の募集枠を多くしては？ ・ 卒後教育についてもセミナーや研修会などを開催してみてもどうでしょうか。（1人職場や少数職場へ対応するため） ・ 解剖と臨床、同時に学べると良いのですが。
(2)	資格取得率の向上が図られているか	3.5	
(3)	退学率の低減が図られているか	3.1	
(4)	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.6	
(5)	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2.4	
【課題】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家試験合格に向け、国家試験対策委員会を設置し、休日も学校を解放し学習環境を整備しているが、合格率100%の目的を達成できていない。 ・ 退学理由の中の「学業不振」「学校生活不適応(個人の事情)」に対する退学率低下に対する対策が不十分である。 ・ 学生の社会情勢に対する関心度が低い。 			
【今後の改善方策】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の国家試験へのモチベーション向上のため、早期(臨床実習終了後)に合宿を行う。 ・ 就職への意思付の為に関連施設による就職説明会を開催する。 ・ 入学後の学業不振を軽減するために、現在行っている入学前教育を充実させていく。 			

【特記事項】	
・就職については1年次より就職に関する書類作成練習を行い、2年次には就活へのオリエンテーション、面接練習を実施するなど、早期より就職対策を実施している。	

5. 学生支援

自己点検・評価			学校関係者評価
【評価項目】		適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	【評価・意見】
(1)	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路・就職支援の取り組みは素晴らしいと思います。卒業生の支援や再就職者への支援、病院やクリニック施設からの求人への対応などさらに進めて頂けると有難く存じます。 ・ 学生のサークル活動などをホームページを使って公開してみてもどうでしょうか。
(2)	学生相談に関する体制は整備されているか	3.2	
(3)	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.0	
(4)	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.8	
(5)	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.7	
(6)	学生の生活環境への支援は行われているか	2.9	
(7)	保護者と適切に連携しているか	3.4	
(8)	卒業生への支援体制はあるか	3	
(9)	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.9	
(10)	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	2.4	
【課題】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生相談に関しては、教員全体で受け付けているが、個人の裁量で対応しているが組織的な支援体制は行っていない。 ・ 学業不振学生の保護者とは随時、面談の機会を設けているが、全体の保護者を対象としたものは行っていない。 			
【今後の改善方策】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の相談窓口としては、専門の窓口の設置と教員の「カウンセリング技術」の研修受講を検討していく。 ・ 現在行っている保護者を対象とした国家試験への取り組みに対する説明会以外の企画(授業参観等)を立案していく。 			
【特記事項】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 求人情報は随時スマートフォンで閲覧できるシステムを提供している。 ・ 奨学金制度については、現在、標準的な制度を活用している。 			

6. 教育環境

自己点検・評価			学校関係者評価
【評価項目】 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			【評価・意見】
(1)	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.3	・ 今後、実習施設をさらに多岐に渡った分野に広げる必要がある。
(2)	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.6	
(3)	防災に対する体制は整備されているか	3.5	
【課題】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内でのパソコン・タブレットの活用が増加してきているが学内の無線 LAN の環境が不十分である。 ・ 臨床実習施設数は理学療法学科 133 施設、作業療法学科 133 施設(平成 29 年 7 月現在)有しているが、学生の居住区に配慮した実習地の確保には十分至っていない。 			
【今後の改善方策】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の授業形態・情報システムを見据えたインターネット環境の情報を収集していく。 			
【特記事項】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外研修は、平成 17 年度よりドイツ・オスナブリュックフェルカー校との姉妹提携による交流を行ってきている。 ・ 県民一斉防災訓練「シェイクアウト石川」に参加し、地震に対する初期行動訓練を実施。 ・ 毎年 4 月に消防・防災訓練を実施。 ・ 救命救急科の医師による AED 講習を学生・教員に実施。 			

7. 学生の受入募集

自己点検・評価			学校関係者評価
【評価項目】 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			【評価・意見】
(1)	学生募集活動は適正に行われているか	3.8	・ 北陸三県での学生募集活動を地道にやって頂きたいと思います。
(2)	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.7	
(3)	学納金は妥当なものとなっているか	3.2	

【 課 題 】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集に関して、北陸3県は以外に上越地区・高山地区・長野地区の進学説明会に参加しているが、少数の実績に留まっている。 ・ オープンキャンパス等広報活動において、作業療法の抽象的なイメージをより具体的にすることで入学者増加を目指しているが、未だ作業療法に対する仕事のイメージと重要性を十分に伝えられていない。 	
【今後の改善方策】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化を見据えてパンフレット・HPの内容をより充実し理学療法士・作業療法士の仕事を理解しやすいものにしていく。 	
【特記事項】	
特になし	

8. 財務

自己点検・評価		学校関係者評価
【評価項目】	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	【評価・意見】
(1)	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.7
(2)	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	2.3
(3)	財務について会計監査が適正に行われているか	3.1
(4)	財務情報公開の体制整備はできているか	2.1
【 課 題 】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の収支は安定しているが、18歳人口減少に伴う、学生充足率の低下による収入の減少も予測されるため、長期的(5～10年以上)には、財務基盤が不透明である。 ・ 財務情報については、決算書及び財産目録等の財務情報を整備しているが、職員及び一般に対して公開に至っていない。 		
【今後の改善方策】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 財務基盤の長期的な安定化を図るため、経費削減を実施する一方、在学生に対する教育環境整備並びに、学生募集活動に対する経費を確保する。 ・ 収支バランスを十分考慮した財務シミュレーションを実施し予算・収支計画を作成する。 ・ ホームページ上での財務情報公開を行う。 		

【特記事項】	
・財務状況に関して、予算・収支計画は理事会の承認を得て、また会計監査も実施している。情報公開の体制が整っていないため、特に財務に関しては、一般教職員の「わからない」という意味を多く含んだ評価結果となった。	

9. 法令の遵守

自己点検・評価		学校関係者評価
【評価項目】	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	【評価・意見】
(1)	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	3.5
(2)	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.2
(3)	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	2.1
(4)	自己評価結果を公開しているか	1.6
【課題】		
・昨年度から「授業評価」のみ実施しているが活用に至らず。また、公開していない。「自己点検・評価」は実施していない。		
【今後の改善方策】		
・職業実践専門課程を通じて、自己点検・授業評価の実施・公開し第三者評価の結果を全職員が共通認識して、円滑な教育活動ができる学内システムを構築していく。		
【特記事項】		
・設置基準等は、教職員全員が理解し実行に努め、適切に運営されていると判断している。		

10. 社会貢献・地域貢献

自己点検・評価		学校関係者評価
【評価項目】	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	【評価・意見】
(1)	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.2
(2)	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.5
(3)	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2.9
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く一般の市民を対象とした健康講座の開催等地域に開かれた公益性の高い事業を期待します。 ・ 公開講座、障害者スポーツへの取り組みは素晴らしいと思います。公開講座は関連病院などにもお知らせいただけると、さらに有難く存じます。

<p>【 課 題 】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科関連団体へのボランティア活動を促し、学生の自主性を尊重する働きかけを行っている。今後もボランティア活動の振り返りや、各活動の魅力を伝え、学生が能動的に参加できるよう指導を行う必要がある。 	
<p>【今後の改善方策】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科関連団体との交流を深め、地域のニーズにあわせた一般公開講座の開催を検討する。(近隣住民へのリハビリ予防講座など) 	
<p>【 特 記 事 項 】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年東京パラリンピックへのボランティア参加の取組みを行っている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の掲示板にボランティア募集の案内を掲示している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 金沢市中学校の授業「職場体験実習」での毎年2名の中学生を受け入れている。 ・ ハローワークの教育訓練事務実務実習地として、年間1～2名(不定期)の受け入れをしている。 	